



平成 23 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 東 洋 刃 物 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 庄子公侑
(コード番号 5964 東証第二部)
問合せ先 執行役員管理部長 清野芳彰
(T E L (022) 358 - 5782)

平成 24 年 3 月期第 2 四半期累計期間実績値と前年同四半期実績値との差異
及び通期業績予想に関するお知らせ

当社が本日発表いたしました、平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間実績値（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）と前年同四半期実績値（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、平成 24 年 3 月期通期業績予想につきまして、下記の通りといたしましたのでお知らせいたします。

なお、当期につきましては、第 2 四半期累計期間の業績予想は公表しておりません。

記

1. 当第 2 四半期実績値と前年同四半期実績値との差異について

(1) 平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間実績値（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）と前年同四半期連結実績値（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前年同四半期期実績値 (A)	百万円 3,213	百万円 △ 37	百万円 △ 108	百万円 △ 447	円 銭 △ 44.80
当第 2 四半期実績値 (B)	2,775	236	214	174	17.48
増減額 (B-A)	△ 438	274	322	621	—
増減率 (%)	△ 13.6	—	—	—	—

(2) 差異の理由

売上高につきましては、本年 3 月に発生しました東日本大震災の被災により合板関連を中心に機械刃物の販売量が減少しました。利益につきましては、前期は棚卸資産の減少や原材料の高騰などにより売上原価が高騰したことや、繰延税金資産の回収可能性の見直しによる取り崩しを行ったことにより大幅な損失を計上いたしましたが、当期は売上高に占める品種構成の変化による売上総利益率の好転と、固定費削減等により製造経費ならびに販売費及び一般管理費が減少したことが主な要因となり好転いたしました。

2. 通期業績予想について

(1)平成 24 年 3 月期通期連結業績予想数値（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回発表予想 (B)	5,300	320	230	140	14.03
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	6,146	56	△ 62	△ 1,383	△ 138.62

(2)平成 24 年 3 月期通期個別業績予想数値（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回発表予想 (B)	4,890	300	220	120	12.02
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	5,653	6	△ 86	△ 1,351	△ 135.35

(3)業績予想の理由

今後のわが国経済の見通しにつきましては、設備関連を中心に生産の持ち直しが見られるものの、引き続き円高傾向が続くことで輸出関連企業にとって大きな足枷となり、未だ景気低迷からの脱却を見通せない厳しい環境が続くと予想されます。

当期の業績予想においても、多賀城工場の復旧に向けての設備投資による減価償却費の増加や、大阪工場の移転に伴う移転費用を特別損失として見込んでおります。

このような環境下にありますますが、当社グループは、東日本大震災からの早期復興ならびに市場への供給責任を果たすためにも、経常的な収益確保に全力を傾注する所存でございます。

(注)上記の連結業績予想および個別業績予想は、本資料の発表日現在における入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と大きく異なる結果になる可能性があります。

以 上